

第 60 回 品質保証分科会 議事録

1. 日 時 2023 年 2 月 13 日 (月) 13 時 20 分～15 時 50 分
2. 場 所 一般社団法人 日本電気協会 4 階 A, B 会議室 (Web 併用会議)
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
出席委員: 中條分科会長(中央大学), 須田副分科会長(テクノア), 三浦幹事(中部電力),
宇奈手(三菱重工業), 高橋(富士電機), 西山(東芝エレクトロニクスシステムズ), 畠中(IHI),
原田(三菱電機), 新屋(北陸電力), 飯塚(東北電力), 伊藤^伸(日本原子力発電),
堺(九州電力), 田中(関西電力), 仲村(東京電力 HD), 奈良(北海道電力),
佐藤^修(鹿島建設), 島屋(大成建設), 長浜(清水建設), 景平(三菱原子燃料),
佐藤^史(日本原燃), 嶋木(日本製鋼所 M&E), 白石(三菱原子燃料),
蓮池(グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン), 佐藤^吉(元東京海洋大学),
吉田(熊本大学名誉教授), 清水(発電設備技術検査協会),
藤巻(原子力安全推進協会), 菅谷(日本エヌ・ユー・エス) (計 28 名)
代理委員: 杉村(日立 GE ニュークリア・エナジー, 奥平委員代理),
小林(電源開発, 石合委員代理), 神田(中国電力, 井田委員代理),
大西(四国電力, 中村委員代理) (計 4 名)
欠席委員: 野村(日本原子力研究開発機構), 景井(ビューロー・ベリタスジャパン) (計 2 名)
常時参加者: 高田(原子力規制庁) (計 1 名)
説明者: 濱田(九州電力), 西田(東京電力 HD) (計 2 名)
オブザーバ: なし (計 0 名)
事務局: 葛西, 末光(日本電気協会) (計 2 名)

4. 配付資料: 別紙参照。

5. 議 事

事務局より, 本分科会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び Web 会議での注意事項を確認の後, 議事が進められた。

(1) 代理出席者, 常時参加者, 説明者, オブザーバの承認, 会議定足数確認, 配付資料の確認 等 他

事務局より, 代理出席委員 4 名の紹介があり, 分科会規約第 7 条 (委員の代理者) 第 1 項に基づき, 分科会長により承認された。代理出席者を含め現時点で出席委員が 32 名で, 分科会規約第 10 条 (会議) 第 1 項に基づき, 委員総数の 3 分の 2 以上の定足数 (23 名以上) を

満たしていることが事務局より報告され確認された。次に、事務局より、説明者 2 名の紹介の後、配付資料を確認した。

分科会長より、今後のことを考え 3 人体制としたいとのことで、分科会規約第 5 条（副分科会長及び幹事）第 2 項に基づき、テクノファの須田委員を副分科会長に指名した。その後、須田副分科会長より挨拶があった。

(2) 分科会タスク委員の変更（報告） 検討会委員の変更（審議）

1) 分科会タスク委員の変更（報告）

事務局より、資料 No.60(2)-1 及び資料 No.60(2)-2 を用いて、ワークショップ検討タスク及び JEAC4111 適用課題検討タスク委員の変更について説明があった。

2) 品質保証検討会委員の変更（審議）

事務局より、資料 No.60(2)-3 を用いて、下記の品質保証検討会委員の変更について説明があり、新委員候補について承認するか、分科会規約第 12 条（決議）に基づく決議の結果、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成により承認された。

- ・ 退任委員 坂本 委員（四国電力）
- ・ 退任委員 濱田 委員（九州電力）
- ・ 新委員候補 大西 氏（同左）
- ・ 新委員候補 船津 氏（同左）

また、2022 年度原子力規格委員会功労賞に推薦された、九州電力 濱田氏より挨拶があった。

(3) 前回分科会議事録（審議）、関係議事録等確認（報告）

事務局より、No.60(3)を用いて、前回議事録（案）の紹介があり、正式議事録とすることについて、分科会規約第 12 条（決議）第 4 項に基づく決議の結果、5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(4) 2022 年度実務コース講習会の開催状況（報告）

事務局より、2022 年度実務コース講習会の開催状況について報告があった。

主な報告は下記の通り。

- ・ 講習会は 3 月 31 日迄の期間でオンデマンド配信中であり、参加者は現時点で 164 名。
- ・ これまで講習会の質問事項等は、品質保証分科会でも審議、公開を実施している。現時点において、今回の講習で質問は無い。事務的に実務コースと特別コースの違いについて聞かれた程度である。

主な意見・コメントは下記の通り。

- ・ 特になし。

(5) ワークショップ検討タスク開催案内（報告）

ワークショップ検討タスク 三浦主査より、資料 No.60(5)に基づき、ワークショップ検討タスク開催案内について報告があった。

主な報告は下記のとおり。

- ・ 開催日程は5月19日（金）。開催時間は9時10分から16時45分。
- ・ プログラム内容は前回の分科会で説明したとおりであり、第1部の開催挨拶から講演までは事前配信し、第2部のパネル討論はライブ配信とする。
- ・ 開催案内は作成済みであり、今後はワークショップ検討タスクでアクションを進めていく。

主な意見・コメントは下記の通り。

- ・ ワークショップが終わった後の事後配信は予定しているのか。
- 一部検討中のものもあるが、ワークショップは有料であり、通信トラブルでライブ配信を受講できない者への対処を考慮し、ライブ配信後に、事後配信が可能なような計画をしている。
- ・ JEAC4111の内容を知ってもらう良い機会になっていると思う。

(6) JEAC4111 適用課題検討タスク事項【中間報告その2】（審議）

分科会長及び幹事より、資料 No.60(6)シリーズを用いて、ワークショップ検討タスクの中間報告2回目について報告があった。

実態調査報告書の完了及び資料 No.(60)-2-②の結論の3項目について品質保証分科会として承認するか決議し、その結果承認された。

主な説明は下記の通り。

- ・ 前回の中間報告における意見募集により、2つの資料に意見を頂いている。1つは資料 No.60(6)-1-①実態調査に関する意見、もう1つは資料 No.60(6)-2-①原子力規制庁から示された4つの課題に対する考え方に対する意見。それらの意見についてタスクで検討した。
- ・ 資料 No.60(6)-1-②として、実態調査結果の最終報告案をまとめた。
- ・ 資料 No. 60(6)-2-②, 60(6)-2-参考として、JEAC4111 適用課題検討タスクの活動報告（中間報告その2）を纏め、JEAC4111 適用課題検討タスクから品質保証分科会へ3項目提案する。1つ目、原子力規制庁から示されている4つの課題に対する考え方については、タスクの議論を継続し、その中で原子力規制庁から示された課題を再度確認したうえで、最終的に仕上げる。2つ目、実態調査については、品質保証分科会としての対処を実施していき次回改定のインプット資料とする。3つ目、品管規則とJEAC4111の比較表は技術資料の扱いとして、これに基づいて講習会等で受講者に説明していきたい。
- ・ タスクは5回実施し、4回目、5回目に原子力規制庁に参加頂いて、議論が出来たところで

あるが、まだ我々が原子力規制庁の意図をくみ取っている形ではないため、原子力規制庁から示された4つの課題に対する品質保証分科会の考え方を整理した資料については、もう少しタスクの方で原子力規制庁とすり合わせをして最終的なものにしたいということである。ただし、時間がかかることになるので、実態調査を踏まえたアクションを先に進めるために、実態調査の報告書については品質保証分科会で検討・承認頂きたいと考えている。

主な意見・コメントは下記の通り。

- ・ この4つの課題が解決できない状況であると思うが、タスクで色々議論して、そこに原子力規制庁も参加し、互いに歩み寄り、議論することで着地点に到達すると思うので、今の状態で進めていってほしいと思う。
 - ・ 結論として纏めてある1点目に対しては、時間は掛かるであろうが検討を進めていってほしい。結論の2点目、3点目については、出来ることから進めていく方針に賛成である。
 - ・ 実態調査の資料については完了ということで決議を取りたい。
 - ・ もう1つ、原子力規制庁から示された課題に対する考え方であるが、まだ動いている状況であり、これについては継続的に議論する形にしたい。その上で資料 No.60(6)-2-②の結論に示された、3つの部分について品質保証分科会として承認するかについて決議を取りたい。
- 特に異論がなかったため、実態調査報告書の完了及び資料 No.60(6)-2-②の結論の3項目について品質保証分科会として承認について、分科会規約第12条（決議）に基づいて、挙手及びWebの挙手機能により決議の結果、5分の4以上の賛成で承認された。

(7) 「規格の活用に向けて」現状と今後の展望（審議）

品質保証検討会 西田主査より、資料 No.60(7)シリーズを用いて、「規格の活用に向けて」現状と今後の展望について報告があった。

主な意見・コメントは下記の通り。

- ・ 資料 No.60(7)-2 で、「確認済み」とはどういう意味か。「未確認」や「一部確認」の領域はどの様な予定か。
- 技術評価対象規格の中に引用があるかないかを調べた。確認が出来ていない領域については、今後確認を進める。
- ・ マネジメントシステムは地道な積み重ねであり、すぐに結果が出るものでもない。人もどんどん変わっていくし、周りの状況も変わっていく。規制側の要求が変わる環境で、このような活動は重要であると感じている。JEAC4111 の浸透にも繋がると思うので、是非継続して確認して頂ければよいと思う。
 - ・ JEAC4111 を活用頂き、品質に対するマネジメントが広まっていく狙いであるので、その

方向に向かって進んでいければよいと思っている。

- ・ JEAC4111 は、日々のパフォーマンス向上活動や改善活動に活用され、当社でもバイブル的に使用している。広く周知するには有効なものと思っている。こういった普及促進的な活動は継続的に実施していくのが重要であり、続けていくしかないと思う。特効薬的なものはなかなかないかと思うが、原子力事業者として継続的に実施していくのは重要と考える。
- ・ 規制があろうとなかろうと、原子力安全の向上に資するために、事業者間でこういうものがあつた方がよいと考え、JEAC4111-2021 を制定したと私は理解している。今の検討タスクは、原子力規制庁の要求事項との適合性を裏付けるような活動であるが、事業者の活動に JEAC4111-2021 が広く浸透し、規制側が検査に入った時に、その活動が規制にマッチしているという評価を受けられればよいと、もう少し長いスパンで活動していけばよいと理解している。
- ・ 原子力規制庁には「JEAC4111 が品管規則を満たさない」と言われた事実もあり、JEAC4111 と JEAG4121 の活用については各社の受け止め方が微妙にずれていたのが実態で、品管規則を満たせばよいという会社もあつた。運用できないのは大きな誤解であるというのが日本電気協会側の考えである。規制側に引用されればそれでよいのだと思うが、少なくとも原子力規制庁の誤解を解く、誤解が解ければ、当然運用されていくと思っている。
- ・ 民間規格なので、自分たちが何処まで活用して実施していくかが重要である。実態調査からも規制側と必ずしも整合していないという認識があり、活用にあつたの障害となっている所が見られるので、皆が安心して規格を使用していける状況を作っていくのが重要なことだし、その様な活動をしつつ、適正に運用されるのが良いことだと思う。
- ・ 規制当局の要求事項として直接引用されるのが JEAC4111 としては適正だと思うが、色々な考え方があることから、規制側のガイドに JEAC4111 が引用され、適正に運用されていくのも重要なことである。この辺り、現状どうなっているのか整理してみることは、少し大変ではあるが、我々なりにアプローチしていく上で大切である。
- ・ 今後、皆の意見を踏まえて検討を進めていきたい。

(8) 2023 年度品質保証分科会活動計画（案）及び JEAC4111 講習会の 2023 年度活動計画（案） （審議）

品質保証検討会 西田主査より、資料 No.60(8)シリーズを用いて、2023 年度品質保証分科会活動計画（案）及び JEAC4111 講習会の 2023 年度活動計画（案）について説明があつた。

2023 年度活動計画について、今回の意見を反映した資料の確認は分科会長一任とし、その資料を原子力規格委員会に上程するかについて決議の結果、承認された。

主な説明は下記の通り。

- ・ JEAC4111 講習会で専門コースについては、今年度の開催は難しいということになった。
- ・ ワークショップについては、来年度に実施する方向で進められている。
- ・ JEAG4121 を技術継承資料とすることについては、主に昨年度の実績ではあるが年度を跨いだため今年度実績にも記載している。

主な意見・コメントは下記の通り。

- ・ 資料 No.60(8)-2 と資料 No.60(8)-3 における専門コースについて、今後の開催の可否を含めて検討していくという説明であったが、資料 No.60(8)-2 においては、今後の開催に向けてという表現になっている。そこは整合させた方がよい。
- 開催を検討した上で、対応するというように書いており、開催しないという選択肢もあるということを書いてある。もう少しはっきりさせるのであれば、記載の修正も考えたい。
- ・ 活用を見込まれる国内外の研究成果等で、GSR Part2 の運用ガイドである DS513 発刊は 2023 年度ということが今回は削除されているが、発刊時期の情報があれば教えて欲しい。
- 原子力規制庁だが、DS513 はドラフト版であり、原子力規制庁としても参加できていない状態で、間接的に情報を頂いている状況となっている。そのため、最新状況が入手できている状況ではない。
- ・ 事務局だが、資料 No.60(8)-1 で JEAG4121 の記載は残すのか。現行規格ではなく、旧版規格なので、管理していくものではないとするのか、廃止するのか、現在の記載では分からない。技術資料化が完了したのであれば年間計画から削除するのではないのか。
- 日本電気協会として、JEAG4121-2015 の扱いはどうなっているのか。
- 事務局だが、新版を発行したことで自動的に旧版は廃止にならず、規格廃止の手続きは制改定と同様に定めがある。旧版は新版発行により廃止にしなければならないかという点、日本電気協会ではそういうことはしていない。廃止しない旧版は新版と共に生きており、使用者の判断で用いるものである。
- ・ そうすると、JEAG4121-2015 は活着していることになり、この年度計画の資料に載せるか載せないかということか。
- 事務局だが、そういう事務的な確認である
- ・ 技術継承資料についての議論の中では、規格廃止の手続きは無いということであったが、規約類を再確認すると規格廃止は明記されていると理解できた。よって、どうするか品質保証分科会で決めることになる。
- ・ 今年度までは、JEAG4121 を技術継承資料としてまとめるということがあったため、今回の次年度計画に載せて、来年度の次年度活動計画からは削除しても差し支えないと思う。
- ・ 資料 No.60(8)-1 及び資料 No.60(8)-2 は原子力規格委員会に報告することになる。先程の意見を反映したものを報告し、記載ぶりについて分科会長に一任ということで決議を取りたいと考える。

○ 特に異論がなかったため、2023 年度活動計画案について今回の意見を反映の記載ぶりは分

科会長一任とし、その資料を原子力規格委員会に上程するかについて、分科会規約第 12 条（決議）第 4 項に基づき、挙手及び Web の挙手機能により決議の結果、5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(9) 原子力規格委員会案件（情報共有）

事務局より、資料 No.60(9)シリーズを用いて原子力規格委員会案件について説明があった。

1) 品質保証分科会委員の再任について

事務局より、資料 No.60(9)-1 及び資料 No.60(9)-2 を用いて、品質保証分科会の再任について説明があった。

主な説明は下記のとおり。

- ・ 分科会規約第 6 条（委員の選任・退任・解任及び任）第 5 項によると、分科会任期は 2 年となっており、2023 年 3 月 31 日に満了となる委員がいるので。その 1 ヶ月前までに継続するかを原子力規格委員会委員長に申し出る必要がある。よって、資料 No.60(9)-2 に再任候補を示しており、再任の意思がない委員については事務局に連絡を頂きたい。連絡がない委員については再任として手続きを進めたい。

2) 原子力規格委員会委員長の選任と委員長選任に関する単記無記名投票結果について

事務局より、資料 No.60(9)-3 を用いて、原子力規格委員会委員長の選任と委員長選任に関する単記無記名投票結果について説明があった。

主な説明は下記のとおり。

- ・ 原子力規格委員長が今期で退任するというので、原子力規格委員会委員長の単記無記名を実施され、投票終了している。結果、東京大学の阿部先生が次期原子力規格委員長として選任される。

3) 第 8 回原子力規格委員会シンポジウム実施結果について

事務局より、資料 No.60(9)-参考 1 を用いて、第 8 回原子力規格委員会シンポジウム実施結果について説明があった。

4) 学協会規格の継続的な活用に向けた電気事業者からの提案について

事務局より、資料 No.60(9)-参考 2 を用いて、学協会規格の継続的な活用に向けた電気事業者からの提案について説明があった。

(10) その他

- ・ 次回の分科会については 5 月下旬から 6 月初旬で、別途日程を調整し実施することにする。

以上

第 60 回品質保証分科会配付資料

資料 No.60(1)-1	原子力規格委員会 品質保証分科会 委員名簿
資料 No.60(1)-2	原子力規格委員会 品質保証分科会 委員名簿（出欠・参加方法）
資料 No.60(2)-1	原子力規格委員会 品質保証分科会 ワークショップ検討タスク委員名簿
資料 No.60(2)-2	原子力規格委員会 品質保証分科会 JEAC4111 適用課題検討タスク委員名簿
資料 No.60(2)-3	原子力規格委員会 品質保証分科会 品質保証検討会名簿
資料 No.60(2)-3-参考	原子力規格委員会 功労賞 推薦申請書
資料 No.60(3)	第 59 回 品質保証分科会 議事録（案）
資料 No.60(3)-参考	第 84 回原子力規格委員会 議事録（案）
資料 No.60(5)	第 13 回 JEAC4111 ワークショップ「JEAC4111-2021 の活用の現状～効果、課題と解決の方向性～」の開催について
資料 No.60(6)-1-①	JEAC4111 実態調査に関する品質保証分科会から頂いた意見等
資料 No.60(6)-1-②	JEAC4111-2021 の活用に関する実態調査結果（最終報告）（案）
資料 No.60(6)-2-①	JEAC4111 適用課題検討タスクの活動報告について（案）【中間報告改訂版】に関する品質保証分科会から頂いた意見等
資料 No.60(6)-2-②	JEAC4111 適用課題検討タスクの活動報告（案）
資料 No.60(6)-2-参考	【分科会意見募集からの変更履歴】JEAC4111 適用課題検討タスクの活動報告（案）
資料 No.60(7)-1	「規格の活用に向けて」現状と今後の展望
資料 No.60(7)-2	他規格における JEAC4111 の引用有無、当否について
資料 No.60(7)-2-①	JEAC/JEAG の技術評価規格における JEAC4111 記載状況
資料 No.60(7)-2-②	【資料送付（1/26AM）】第 64 回 品質保証検討会について（電気協会）
資料 No.60(7)-2-③	原子力規制庁の基本検査運用ガイドに関する文書に対する JEAC4111 及び JEAG4212 に対する検索結果
資料 No.60(8)-1	2023 年度各分野の規格策定活動
資料 No.60(8)-2	原子力規格委員会 品質保証分科会 2023 年度活動計画（案）
資料 No.60(8)-3	2022 年度 JEAC 4111 講習会等 実績及び 2023 年度 JEAC 4111 講習会等 計画
資料 No.60(9)-1	分科会規約（第 6 条（委員の選任・退任・解任及び任期：抜粋）
資料 No.60(9)-2	原子力規格委員会 品質保証分科会 委員名簿（再任確認）
資料 No.60(9)-3	Web 会議併用における原子力規格委員会委員長の選任について（案）
資料 No.60(9)-参考 1	第 8 回 日本電気協会 原子力規格委員会 シンポジウム結果について
資料 No.60(9)-参考 2	学協会規格の継続的な活用に向けた電気事業者からの提案について